

グローバル人材育成推進事業 審査結果表

大 学 名	国際教養大学
申 請 区 分	タイプA
〔評価コメント〕	
<p>本構想は「グローバル・リーダー人材育成のための教育力と学修支援強化」というテーマを扱ったプログラムであるが、本学のこれまでの国際教養教育に基づくグローバル人材育成の実績を十分に踏まえた、グローバル・リーダー育成を目指す意欲的な取り組みである。また、その展開は、学部の国際教養教育と大学院の専門教育を統合した教育体制によって支えられるよう設計されており、高く評価できる。</p> <p>特に優れている点は、全授業の英語化、厳密なGPA成績管理、卒業要件となっている1年間の海外留学ときめ細かい支援体制であり、更に電子ポートフォリオの導入、CLAへの参加、能動的学修支援センターの新設による教育の成果検証や能動的学習の推進が挙げられる。また、教員のグローバル教育力の向上については、海外大学の教員と本学教員の相互派遣、教育力を評価し人事に反映する仕組みが整備されている。更に、卒業時の外国語力スタンダードがTOEFL ITP 600相当というのはかなり高い目標であるが、本学の取り組みを勘案すると、実現可能性は高いと思われる。</p> <p>しかしながら、本構想で新たに導入・実施される事業には新規性がやや乏しく、従来の教育内容との差異が明確ではなく、教育力強化・専門性強化に関わる具体的な方策が乏しいと思われる。また、測定指標・達成水準として大学院進学率 25%を挙げているが、大学院進学は必ずしもグローバル・リーダー養成教育の成果と相関するものではなく、授業の中でグローバル人材育成をしているのなら、その成果を直接的に測定する尺度を用いるべきである。更に、5つの達成目標の内、外国語能力以外の測定指標が有効かどうか不明であるとの指摘もあるので、これらの諸点に関しては更なる検討が望まれる。</p> <p>最後に、今回「グローバル人材育成推進事業」に採択された貴学におかれては、20年、30年後の「日本」を見据え、国際社会に積極的に関与し貢献するとともに、日本がより豊かで強く、かつ様々な価値観を大切にす国になるための礎となる「グローバル人材」の育成に中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任と期待の重さを認識されるとともに、大学として構想内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。</p>	